

不知火海・球磨川紀行

豊饒の海と急流の渓谷を巡り、古里の営みに思いを馳せる旅へ。



1 遙拝堰 ようはいせき



1 萩原堤防 はぎわらていぼう

緑濃い山地と変化に富んだ海岸線が続く、雄大な熊本県南部の地。清流球磨川をはじめ、幾多の河川がそそぐ不知火海（八代海）とその周辺には、橋梁や隧道、治水・港湾設備を築いた知恵と技が、今も生きている。



2 夕葉橋 ゆうはし



3 郡築三番町樋門 ぐんちくさんばんちようりもん



4 第一球磨川橋梁 だいいちくまがわきようりよう

国内最大級の石造樋門

九州自動車道「八代」ICから国道3号に移り、八代市街へ。萩原町で左折して球磨川河岸に上る。県道158号を上流へ向かうと、川沿いに大きく湾曲した萩原堤防 1と壮大な遙拝堰 1に出会う。どちらも元和年間（1620年頃）、加藤清正の築造と伝えられる。石張りの水はねを備えた堤防と幅800mもの強固な石堰は、幾度も改修を重ねており、往時の姿をしのぶことは難しい。

国道3号に戻って西へ。旭中央通の信号から南下すると、球磨川に夕葉橋 2が架かる。昭和39年（1964）の完成当時、片持ち張り出し架設という最先端のディビダーク工法が採用された橋梁。今も現役の幹線道路橋として活躍している。

旭中央通の信号から県道14号を北上し、県道336号との交差点を西へ。郡築六番町のT字路で南へ向かうと、郡築三番町樋門 3がある。建造は明治33年（1900）。躯体部分は長さ33.09mの砂岩切石積み。端正な10連アーチは赤煉瓦積みの洋風デザイン。干拓地に築かれた3つの樋門の内、現存する唯一のものであり、石造樋門では国内最大級だ。

貴重な存在の“兄弟橋”

八代市街の新萩原橋から南へ向かう国道219号が、旧人吉街道である。球磨川沿いを走るJR肥薩線「鎌瀬」駅の先に、第一球磨川橋梁 4が架かる。ピン結合方式のトラス橋は長さ205m。明治41年（1908）の架設当時のピン結合がそのまま残っている。川に対して斜角

を付けたトランケート式であり、斜めに川を渡る珍しいスタイルである。

そして、同「瀬戸石」駅の先に堤高26.5mの重力式コンクリートダム瀬戸石ダム 5がある。球磨川では「魚ののぼりやすい川づくり推進モデル事業」を推進。このダムも左岸にトンネル式魚道を整備。隣の観察施設「くまがわ 川のとつとつ館」で、魚道を上る魚の姿を見ることができる。

その先、同「渡」駅の手前に橋長179mの第二球磨川橋梁 6が架かる。先程の第一橋梁と同時期に架設された“兄弟橋”。現存するトランケート式橋梁はこの2橋だけである。

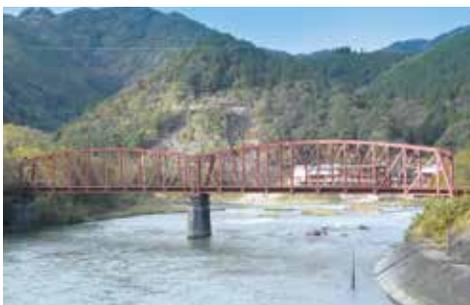
国道219号を北へ戻って県道27号へ折れ、国道3号へ。八代市と水俣市の間にある3つの峠、赤松太郎、佐敷太郎、津

奈木太郎は三太郎峠と呼ばれ、箱根と並ぶほどの難所であった。豊臣秀吉の薩摩攻めの折、軍勢はこの地を避けて海路を選んだという。

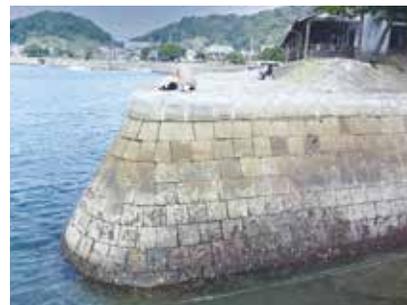
この佐敷太郎峠と津奈木太郎峠には、かつて旧国道3号に隧道が掘られていた。県道27号を西へ走り、佐敷川の手前の信号を右に折れて直進。細い山道を上ると（旧）佐敷隧道 7が現れる。一方、佐敷から国道3号を南下し、肥薩おれんじ鉄道「湯浦」駅の先、右カーブの途中で左折。県道271号の手前を右折し、山道を登ると（旧）津奈木隧道 8がある。前者は全長433.5mで明治36年（1903）に、後者は全長211.6mで明治34年（1901）に完成。どちらも半円アーチ状の坑口は冠木門型、ポータルは煉瓦積み。どちらも幅員5.5mを



5 瀬戸石ダム せといしだむ



6 第二球磨川橋梁 だいにくまがわきょうりょう



11 三角西港護岸／(旧)三角港 みすみにしこう ころん(きゅう)みすみこう



7 (旧)佐敷隧道 (きゅう)さしきずいどう



8 (旧)津奈木隧道 (きゅう)つなぎずいどう



9 津奈木重盤岩眼鏡橋 つなぎちようはんがんめがねばし



10 天門橋 てんもんきょう

確保。後の自動車時代に備えた構造だ。

堂々たる世界文化遺産

さらに、国道3号を南下し、同「津奈木」駅の手前、右手のガソリンスタンドの角を右へ。T字路を左折して進むと、津奈木重盤岩眼鏡橋 9が見える。嘉永2年(1849)、名石工・岩永三五郎の弟三平が架橋した一連石造橋。アーチ上の石積みが少なく、軽やかで端麗な容姿。この橋は旧薩摩街道筋にあり、かつては西郷隆盛や坂本龍馬も往来したことだろうと思われる。

国道3号を北上し、国道266号で西へ折れて宇土半島の西端まで走り、天草五橋の1号橋天門橋 10を渡る。全長502mの連続トラス橋。昭和41年(1966)の築造当時、この構造で中間支間300mは世界最長

であり、その架橋技術の高さで世界中から注目された。

本土側に戻って国道57号のT字路を左へ進めば三角西港護岸・(旧)三角港 11である。港湾施設の設計はオランダ人技術者ムルドル。石積みの護岸やふ頭、石造りの水路や橋などが整備され、明治20年(1887)に完成。国費で築造された3港のうち、当時の施設が現存するのはここだけ。貴重な史跡であり、2015年に「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録されている。

八代・球磨・宇城地域には国道3号沿いに道の駅「うき」、「竜北」、「たのうら」、同219号沿いに「坂本」、同266号沿いに「不知火」、県道27号沿いに「大野温泉」があり、地域の特産品がそろっている。



熊本県

宇城市
上天草市
八代市
球磨郡球磨村
葦北郡芦北町
葦北郡津奈木町



道の駅「不知火」

道の駅「うき」

道の駅「竜北」



道の駅「坂本」



道の駅「たのうら」



道の駅「大野温泉」

土産遺産 in 九州のホームページアドレス www.qscpuia.or.jp/dobokuisan/